

ものづくり企業のDX化を支援

1月からシャープ(株)開発の基幹業務システムで社会実証

市は1月から、シャープ(株)が開発した「クラウド型基幹業務システム」を活用した社会実証に取り組んでいる。スマートシティ化推進の一環で、同システムは会計、購買、在庫、生産、販売といった一連の情報を統合管理することができ、入力などの管理業務の効率化が図られるほか、調達や在庫、売上状況を日次レベルで把握できるため、事業計画や経営戦略にデータを生かす「データ経営」への貢献が期待できる。大阪府や府内43市町村、企業、大学などで構成する「大阪スマートシティパートナーズフォーラム」のプロジェクト「大阪ものづくり2.0」の取り組みで、昨年上半期に市が参加企業を募集。課題や要望を聞き取り、金属加工業など市内のものづくり企業5社の参加が決まった。以降、シャープ(株)が中心となって企業への聞き取り調査やプロトタイプ実装など綿密な調整を重ね、1月から各企業の業務にシステムを導入している。今後は効果確認や参加企業からのフィードバックを生かし、取り組み拡大やシステムの改善、早期実用化を目指す。

★大阪スマートシティパートナーズフォーラム

令和2年8月設立。大阪府、府内43市町村、企業、大学、シビックテックなどで構成され、地域課題を抱える市町村と企業・団体が共同してソリューションやサービスの実証・実装を進め、課題解決につなげる取り組みを推進する。

★「大阪ものづくり2.0」

市町村が抱える地域・社会課題の解決に向け、コーディネーター企業等を中心にビジネスモデルの実証・実装を行う「OSPFプロジェクト」の7分野の内の1つ。ソフトバンク(株)(コーディネーター)とシャープ(株)が枚方市などの自治体と連携して、基幹業務システムのシェアリングによる中小製造業のデータ経営と生産性向上を目指す取り組みを進めている。

★市とひらかた地域産業クラスター研究会が令和3年12月4日(土)に開催した「枚方市産学公連携フォーラム2021」では、参加企業の1社がこの社会実証に関連した取組内容を発表し注目を集めた。市担当者は「コロナ禍においてデジタルの重要性が一段と高まる中、企業のDX化を後押しする契機にしたい」と話している。

<お問い合わせ>

観光にぎわい部 商工振興課 ☎ : 072-841-1325 FAX : 072-841-1278